

フェートン号事件風評覚 1 (松平図書頭の死去について)

長崎史談会 幹事 井手勝摩

1、図書頭の切腹

松平図書頭康平は文化5年(1808)8月17日夜半か18日未明に切腹されたが、公表は26日に行われた。

しかし公表前から切腹され既に死去されていることは噂されていた。前回(25年3月号No.67)記した8月21日付の藤家日記には「御奉行様病気に付、町内厳しく取り締まり、浮説申し触れまじき…」とあり、奉行所は御家相続のこともあり、奉行が亡くなったことを知られたくなかった

(本稿は平成19年長崎学第1回講座での原田博二会長の資料を参照する)



長崎奉行所 西役所絵図

2、風聞その1「長崎略史」

8月26日 松平図書頭が亡くなる。大音寺に葬る。18日暁、責任をとり、遺書を遺して西役所で自殺す。享年41。家来はこれを秘して病と称し、今日に至って喪を發す。

3、風聞その2「諫早日記」

①8月25日 松平図書頭殿はこの間から風邪をひかれていたが、急に御胸痛を發せられ、別して御勝れにならず、今日曲淵甲斐守殿へ早使者を送られたことを知らせてきた。尚 御死去のお知らせが明日あるのではないかと聞いたので御心得のため内々にお知らせする。

②8月26日 松平図書頭殿御病氣養生叶わず、今暁寅中刻御卒去されたと申して来た。異国船にたいし不行届きのことがあったので切腹されたと風聞致している。

4、風聞その3「大音寺日鑑」

①8月18日 東古川町乙名藤瀬又兵衛が夜に来られ、内々お話したいと云われた。松平図書頭様御急病になられ、前例もあるので御自身でお出でになるか、役僧をお越しになるかと申された。前例と言われても急には

分からなかったが、大切なことだと申されたので御伺いした。

御屋敷の中の玄関より参上したところ年行事が来られ、藤瀬又兵衛の案内で表書院上之間へお招きになり、影照院、専修院と伴僧3人は次之間に控えていると、御家老、御用人が挨拶に出られた。暫くしたら御近習の案内で御居間へ入り香剃之儀式、誦経念仏して帰った。

②8月25日 「やらい」(葬儀を執り行う位牌所で奉行クラスでないとは作らない)も昼頃までに出来上がり(本堂の南側に設ける)、御墓所も夕方までに大概出来上がる。

この様に18日夜には大音寺様により西役所で香剃之儀式、誦経が行なわれている。葬儀の準備は19日から既に始められていたようである。墓所は20日から工事が始められ、「やらい」も23日から工事が始められている。墓地が造成され「やらい」が造られていることから、僧侶の口は堅くても工事に携わった人たちの口を塞ぐことが難しい。町民は奉行が亡くなられたことを知っていたと思われる。



また役人や諸藩の蔵屋敷などは図書頭が切腹されたことも知っており、胸の病氣といっても風評が飛び交わないのが不思議である。

8月27日の葬儀の日は朝7時(午前4時)過ぎより雨が降っていたので、本堂で行う予定であったが、小雨になったので「やらい」内で行なわれている。8時(午後2時)頃御葬式が始まり、7時(午後4時)頃終わっている。

この項 終